



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



父兄会秋季部会が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

平成30年度父兄会秋季部会(1年生父兄を除く)が、去る10月20日(土曜日)午後1時から旗の台校舎(医歯薬学部)と横浜校舎(保健医療学部)で開催されました。



当日は秋晴れのさわやかな日に恵まれ、例年以上の大勢の出席がありました。歯学部全体会は4号館6階600号室で開催され、204組 235名のご父母が出席しました。私からこれまで歯学部が取り組んできた教育改革について、PBLやIT教材、電子ポートフォリオなどを利用して能動的学習を推進していること、他学部や地域歯科医師会と連携して実地臨地実習を推進していること、および選択実習を中心にグローバル化を推進していることなどを改めて紹介し、ご父母の理解を求めました。

美島教育委員長から進級判定ならびに卒業判定の説明があり、成績向上に向けて様々な支援体制をとっていることを紹介しました。高見大学院研究科長から本学教員による最新の注目研究、大学院生の海外医療協力活動、大学院制度の概要ならびにマルチドクタープログラムの紹介がありました。上條学生部長からは全歯体でサッカー部、卓球部、陸上競技部ほかの活躍で総合第7位になったこと、および学生生活全般にわたる注意事項がありました。

学部全体会終了後、会場を移して、ご父母と各指導担任との個



別面談が行われました。指導担任は主に生活指導に力をいれ、別途学習支援の必要な学生に対して修学支援制度を導入して、成果があがっています。

3時半から7号館で医歯薬学部合同の懇親会が開催されました。與儀美由紀父兄会長の挨拶に引き続き、小口理事長から学生が充実した学生生活を送ることができるように最大限の支援をしたいとの挨拶がありました。指導担任を交えてご父母と楽しい歓談をし、午後4時半過ぎに散会しました。

昭和大学ホームカミングデーが開催されました

歯学部長 宮崎 隆



第11回昭和大学ホームカミングデー(旗の台キャンパス)が、去る10月7日(日)午前11時から50周年記念館で開催されました。当日は台風24号通過後のフェーン現象で30度以上の真夏日になりましたが、Golden 表彰(卒後50年)の医学部36回生、Silber 表彰の医学部61回生、歯学部11回生、薬学部24回生の卒業生が大勢参加しました。

式は管弦楽団のオープニング演奏に引き続き、実行委員長の倉田知光先生の開会の辞で厳粛に開始されました。小口勝司理事長と小出良平学長から挨拶があり、小出学長から各代表者に表彰状が授与されました。表彰者を代表して医学部36回生の島村忠勝先生が学生時代の思い出を紹介し、大学への感謝の念をこめた挨拶をされました。参加者全員で昭和大学宣言と校歌を斉唱し、応援指導部による若さ溢れるエールで会場が盛り上がったあと、田中一正先生の閉会の辞で終了しました。

その後懇親会があり、卒業生は旧交を温めて楽しいひと時を過ごしました。卒業生が今後ともお元気で益々ご活躍されますようにお祈り申し上げます。

第112回歯科医師国家試験の日程が決まりました

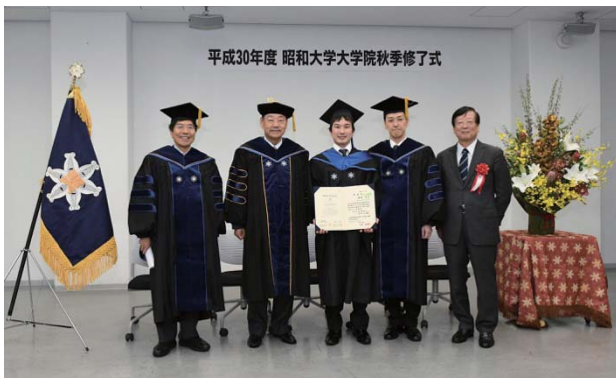
教育委員長 美島 健二

厚生労働省より第112回歯科医師国家試験の実施日程に関する公示があり、試験日が来年の2月2日(土)、3日(日)と決定しました。6年生においては10月2日に第1回受験手続き説明会が行われ、11月中に出願、来年の1月に受験票交付という流れになります。合格発表は来年の3月18日(月)14時に行われる予定です。

6年生の現状は、卒業試験Ⅰが9月25日、26日に実施されました。本年度から卒業試験は本試がⅠ、Ⅱの2回となり、卒業試験Ⅱが12月3日、4日に実施されます。2回の本試験の平均点で合格基準を満たした学生は卒業見込みとなりますが、不合格になった学生にも1月7日、8日に再評価試験が実施され卒業の機会が与えられます。学生達は、寒さを吹き飛ばすように熱く集中して勉強を継続しています。必ずや良い結果が得られることと確信しております。

大学院秋季修了式が挙行されました

歯学研究科長 高見 正道



平成30年9月27日、午後4時より平成30年度大学院秋季修了式が昭和大学16号館3階講義室において挙行されました。昭和大学管弦楽団による厳かな演奏の後、学位記授与式がおこなわれ、医学研究科15名、歯学研究科1名、薬学研究科1名に博士の学位が、保健医療学研究科9名に修士の学位が授与されました。アカデミックガウンに身を包んだ歯学研究科の黒坂正生さんは緊張した面持ちで小出良平学長より学位記を直接受け取りました。小出学長は、「今後は、教室・学部・大学の指導的な立場として一層の研鑽を積みながら、研究活動を継続されることを期待しています」と述べました。続いて小口理事長による祝辞、各研究科長の挨拶、列席者(各学部長・富士吉田教育部長)の紹介と続き、全員で昭和大学宣言と校歌斉唱をおこない閉式しました。式の後、宮崎歯学部長や研究室の方々が黒坂さんを囲んで学位取得を讃え、皆で賑やかに写真撮影をおこないました。

昭和大学解剖慰霊祭が挙行されました

口腔解剖学講座 中村 雅典



平成30年度昭和大学解剖慰霊祭が、10月16日(火)午後2時より上條講堂で行われました。学長、学部長をはじめ教職員、医学部・歯学部・薬学部・看護専門学校の学生および多数の御遺族が参列しました。本年度の慰霊祭は平成29年9月から平成30年8月までの間に御逝去され、正常解剖のために献体された方および病理解剖に供された物故者を慰霊するために、御遺族をお招きしてしめやかに挙行されました。歯学部の2年生で行われる解剖学実習のために献体され、今年度慰霊される物故者は21柱でした。歯学部の解剖学実習は5月から7月にかけて連日行われました。学生は人体解剖学の知識の習得と献体に対する感謝の気持ちを込めて、静粛な心で式に参列しました。

開会の辞に引き続いて、物故者の御冥福をお祈りして黙祷が捧げられ、昭和大学代表として医学部臨床



病理診断学講座の瀧本雅文教授が祭文を述べられました。続いて学生代表として歯学部からは2年生の齋藤大輔君が弔辞を述べました。小出良平学長より参列者に対して御挨拶があり、最後に参加者全員が献花を祭壇に捧げて故人の冥福を祈り、午後4時に解剖慰霊祭は終了しました。

昇任・採用

広報委員長 中村雅典

関 健次 准教授 (歯科放射線医学)
望月 文子 講師 (口腔生理学)

行事予定

広報委員長 中村雅典

11月 3日(土): 推薦・編入入試
11月15日(木): 創立記念日

歯科英語教育シンポジウムへ参加 しました

口腔微生物学講座 桑田 啓貴



10月6日(土)に大阪大学で開催された「国際的な歯科医師養成を目標とした歯科英語教育早期導入のためのフレームワーク開発に関する公開討論会」へ参加いたしました。昭和大学からは桑田と国際交流センターのマイヤー先生の2名で参加しました。この会議は徳島大学歯学部のおマール先生が主催され、過去にも同様の趣旨で2度ほど開催されています。議題としては、徳島大学歯学部での英語授業の取り組み紹介、日本の歯学部における英語教育の重要性、学生のモチベーション向上、国家試験における英語問題の位置づけなどが議論されました。さらに、岡山大学出身で、現在ケースウェスタン大学でアシスタントプロフェッサーをされている平間先生によるアメリカ歯学部の現状と日本における歯科英語教育に関する発表を拝聴することができました。会議でのディスカッションは全て英語で行われ、参加者の皆さんは大変活発に議論されていました。会議の後半にグループごとのブレインストーミングを行い、全体のアウトカムの総括を行いました。1日だけのミーティングでしたが、現在の日本における歯科英語教育の現状を知ることのできる貴重な機会でした。

スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)で入賞 しました

歯学部5年 西田 訓子

平成30年8月24日に第24回スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム(SCRP)日本代表選抜大会が日本歯科医師会館で開催され、全国26の歯学部・歯科大学から各1名の学生が英語による研究発表を行いました。



私は、マルチドクタープログラムの研究テーマである『口腔と免疫関連組織に対する骨吸収抑制薬の新たな薬理作用』について発表しました。審査員が来られた時は緊張で足が震え、終わったかと思いきや、

あと2回も別の審査員が来られると知り愕然としました。また他大学の発表内容はとてもレベルが高かったので、基礎部門の2位に自分の名前が呼ばれた時は本当に驚きました。

臨床実習後に毎日のように歯科薬理学講座に通い、 μ CT解析や組織切片の作成、フローサイトメトリー等を行ってきましたが、失敗ばかりで自分の技術の未熟さを痛感する日々が続きました。また英語の発表練習でも、最初は先生が何を仰っているのか全く理解できず、自らの語学力の無さが本当に情けなくなりました。ただ、このような地道な努力が研究であり、自分でやらなければ何も新しい結果は得られないと気づけた事は、今後、大学院に進学してもっと研究を掘り下げ、その成果を臨床に役立てたいという気持ちに火をつけました。

最後に、親身になって研究を指導して下さった歯科薬理学講座の先生方、応援してくれた友人と家族に心から感謝いたします。

マダガスカル口唇口蓋裂医療協力 に参加しました

歯学部5年 家泉 裕香

私は本年度のマダガスカル医療協力に歯学部の学生代表として参加させて頂きました。



9月12日からの18日間の滞在中、計21件の手術が実施され、フィールドワークを除きほとんど全ての手術、術前術後の回診を見学することができました。形成外科や麻酔科の先生方、看護師の方たちから術中詳しく解説をして頂いた上、アシストや器械だし、器具滅菌のお手伝いもさせて頂き、口唇口蓋裂の手術に関する理解を深めただけでなく、それぞれがどういった視点をもって手術に臨んでいるのか、という新しい学びや発見もありました。

歯科としては矯正科の中納先生ご指導の下、術前の歯磨き指導や印象採得、口腔内写真撮影をさせて頂きました。う蝕の多さ、口腔衛生状態の悪さが印象的でしたが、フィールドワークや現地の方のお話を通じてマダガスカルの生活環境を見聞きする中で、歯ブラシ1本が買えない途上国の厳しい現状を知りました。

日々の生活や景色からも感じる事、学ぶことが非常に多く、医療者としての視野が大きく広がる、大変刺激的な経験となりました。素晴らしい機会を与えて下さった先生方や関係者の皆様、滞在中にお世話になりました皆様に、心より御礼申し上げます。

ウィーン医科大学を訪問しました

歯学部長 宮崎 隆

去る10月11日にオーストリアの首都ウィーン中心部にあるウィーン医科大学を訪問してきました。この大学は中世に設立されたヨーロッパで最も古い医学部の一つで、ノーベル賞受賞者も多数輩出しています。ウィーン大学の医学部として存続していましたが、第二次世界大戦後に医科大学として分離しました。医学部附属病院はヨーロッパで最大規模を誇っています。本学医学部は2005年に学部間交流プログラムを締結し、毎年臨床実習生の派遣と受け入れを行っています。

ウィーン医科大学には歯学部もあるので、国際交流担当の Human 教授のご尽力により、本年3月に歯学部間の交流プログラムも締結しました。今回、実質的な学生交換をするにあたり、現地の視察を行いました。学部長の Moritz 教授は



レーザ歯科の専門で本学の松本光吉名誉教授と知己があったようですが、急な出張が入りお会いできなくなりました。代わりに副学部長の Jonke 教授(矯正歯科)が大学の案内をしてくれました。

歯学部・歯科クリニックはもともと陸軍病院の建物を改修し、さらにモダンなガラス張りの廊下を拡張した立派な建物でした。私自身多くの大学を訪問しましたが、本施設は敷地や建物の規模に加えて、診療機器や学生実習設備も充実しており、アートの装飾を含めて最も印象に残る素晴らしい施設でした。

学生は1学年130名で、80%がオーストリア国籍、15%がEU、残りの5%がその他を採用するように法律で決まっているとのことでした。専任教員は約100名ですが、支援職員が400名もいます。



従来の保存、補綴、矯正、口外、小児歯科等のクリニックに加えて、美容歯科、レーザ歯科、インプラント歯科、デジタル歯科等の多くの専門外来があり、Aplasia (形成不全)や Bulimia (過食症)などの珍しい外来もありました。学生診療ユニットでは学生がペアで実地の診療にあたっていました。

研究も Oral Biology から再生、先端材料・技術まで活発に行われているようでした。今後、学生だけでなく教員の交流も深めていきたいと考えています。

マハサラスワティ大学との学生交流を行いました

口腔微生物学講座 桑田 啓貴



10月1日から5日までの日程で、インドネシアのマハサラスワティ大学歯学部より学生が訪問しました。昭和大学姉妹校でもあるマハサラスワティ大学はリゾート地として有名なバリ島のデンパサールにあります。ビーチが街全体を囲んでおり、歯学部のキャンパスからも近いそうです。昨年度姉妹校協定の締結後、マハサラスワティ大学の先生方が見学にこられました。今回は Widiastitiさんと Alfaさん(5年生)の2名が訪問されました。到着前日の大型台風24号の影響で、成田空港から大学までの電車のダイヤが大幅に乱れ、昭和大学への到着も遅れるというアクシデントに見舞われつつ、事前の予定通りに各診療科・講座を訪問することが出来ました。マハサラスワティ大学の先生のご希望に応じて、歯内療法、地域連携、口腔リハビリテーション、歯科放射線科、口腔薬理学、口腔生化学、口腔生理学、口腔微生物学と、1週間の滞在期間には盛りだくさんの内容で見学をしてもらうことができました。彼女たちにとっては、訪れた診療科はどれも興味深く、有意義であったとのフィードバックをもらうことができました。最終日、旗の台キャンパスで行われていた旗ヶ岡祭にも参加してもらい、歯学部学生有志によるラーメン屋台を体験してもらいました。聞くところによると、マハサラスワティ大学にも日本文化学講座があり、日本人教員も在籍しており、毎年秋に Bunka-sai が行われているとのことでした。

10月19日には、マレーシアイスラム国際大学、10月24日には香港大学歯学部からの学生訪問が実施されています。その他今後も外国からの訪問が予定されています。ちなみに、「歯が痛い」はインドネシア語では、"sakit gigi"だそうです。昭和大学の皆さんの御協力により、昭和大学の国際交流はますます発展しつつあります。今後とも何卒よろしくお願い致します。

編集後記

口腔生理学講座 中山 希世美

今年も残すところあと2ヶ月となりました。これから、寒さの厳しい季節になります。皆様、体調など崩されぬようご自愛ください。最後になりましたが、大変お忙しい中、ご寄稿くださいました皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。